

開催日程：令和6年2月15日（木）13：30～15：20

開催場所：香川大学教育学部附属坂出中学校

事業内容：あいサポーター研修

対象者：附属中学校1年生98名、保護者4名、教員5名

講師：宮本昌尚、谷田部秀男

## 1. プログラム内容・研修の様子

「あいサポート運動」の目的と理念の説明から入り、「知ること」の大切さとあいサポート運動がいつ、どのようにして始まったか、そして現在は全国に広がっていて、全附P連としても全国規模の団体として初めて協定締結をし、あいサポートの輪を拡げていっていることを説明した。

生まれつきの障がいもあるが障がいは誰にでも生じうるものであり、その種類や程度も様々で、個人の努力で改善できる「個人モデル」と社会全体の問題として社会的障壁を取り除く必要がある「社会モデル」の2つがある。バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方でその「社会モデル」をみんなの力で変えていく必要性を、シャンプーに付いているマークやドラム式洗濯機の例を出しながら参加者と考えていった。

生徒にも質問を投げかけ、普段気にも留めずに使っているものの中にもユニバーサルデザインの考えがあることに驚いていた。

DVDの視聴では障がいについて知らないことを多く学び、車いす体験を通して障がい者の目線や車いすの乗り心地、またお手伝いするときの声掛けや気配りの仕方を学んだ。

## 2. 所感（ふりかえり）

附属坂出学園では附属特別支援学校との交流や共同作業も頻繁に行われており、また合理的配慮の必要性を様々な場面で学んできているため、取り組みやすい内容であったと思う。

それでも知らないことや新たな気づきの時間になり非常に有意義な研修になった。

取材に来ていた地元のケーブルテレビにも取り上げていただき、感想を聞かれた生徒は「知らないことがたくさんあり、これから障がい者に対して必要な配慮をしていきたい」「車いすで段差をこえることが難しく苦勞した。段差のない社会が実現できるよう頑張ります」と答えていた。

研修の最初に「昨日障害を持った人を何人見かけましたか」と問いかけ、研修の最後に同じ質問をしましたが、研修前後で障がいに対する考え方が変わってきたと感じた。

